

建設常任委員会

十月二十五日から二十七日までの日程で、大阪府高槻市にて「古曾部（こそべ）防災公園の管理運営」、山口県岩国市にて「市営住宅ストック総合活用計画」についてを調査視察しました。

高槻市では、市民の健康増進や憩いの場となり、災害時には避難場所として活用できる公園、緑地の整備に努めているとのことであり、古曾部防災公園は高槻市初の本格的防災機能を備えた地区公園として昨年四月に開設された施設でした。管理運営費用として年間約六千二百万円の一一般会計からの繰り出しがあるということでしたが、スポーツ、レクリエーション施設として十分な内容であり、さらに耐震性貯水槽、災害時ヘリポート、鍋をのせて煮炊きできるかまどベンチ、下水道のマンホールを利用した非



ベンチ

かまど

マンホールトイレ

常用トイレなどがあり、災害への備えを市民に広く啓発する目的は十分果しているとのことでした。当市においても公園の新設、再整備の際には、防災に対する備え、市民への防災意識啓発の部分を参考にすべきと考え

ます。岩国市では、合併により散在している市営住宅の管理を容易にすること、耐用年数を経過した市営住宅を計画的に整備し、有効に活用することなどを目的に市営住宅ストック総合活用計画を策定していました。計画策定に当たり、人口の動向、住宅ストックの状況、高齢者の住宅事情などのさまざまなデータをもとに市営住宅必要戸数の推計と充足状況が検討されていました。建て替え・廃止の計画ばかりではなく、維持保全、個別改善の内容が非常に充実しており、応募倍率が約六倍と高い理由を伺い知ることができました。当市の市営住宅も、老朽化等の問題から今後建て替えや個別改善を検討しなければなりません。その際には高齢者、障害者、子育て世帯、若者定住までも考慮し、きめ細やかな計画策定が求められると考えます。

森林・林業・林産業活性化促進 十和田市議会議員連盟

議員連盟設立までの経緯

当市は総面積の六五・六％が森林であり、森林から多様な恵みを受けています。しかし、この森林を守り育ててきた林業を取り巻く状況は、高齢化による後継者不足、木材価格の低迷等により厳しさを増しています。

そこで、当地域の林業、林産業の衰退を防ぎ、かつ、森林の公益的機能の低下を防ぎ、官民一体となった森林を守り引き継ぐ機運を高め、加えて、林業の活性化と木材需要の拡大に取り組みようと、平成十年に当市議会議員全員が参加して「森林・林業・林産業活性化促進十和田市議会議員連盟」が設立されました。

視察内容

今年度は、木材資源の有効活用と保全に取り組み津軽地方等三方所の施

設を調査視察しました。

初めは、五所川原市の「津軽ペレット協同組合」にて、バイオ燃料で企業が行う二酸化炭素削減制度といわれる国内クレジットの売却など、さまざまな取り組みを研修しました。



くろくまの滝付近の現地視察

次に、鱈ヶ沢町の「津軽白神森林環境保全ふれあいセンター」では、森林を守り育てる活動に取り組んでおり、自然再生活動の説明を伺い、その後、くろくまの滝までの



秋田県北木材センターの工場見学

散策道等を見学しました。最後に、秋田県大館市の「協同組合 秋田県北木材センター」では、二十九社が出資し、秋田杉を使った木材製品・銘木の市売、集成材の製造・販売について研修しました。今回の視察では、森林が我が国固有の循環型資源、再生可能エネルギー資源として重要な役割を果たしていることと再認識するものでした。当市でも伐採適齢に達している森林が多くあるため、今後の林業の活性化、活用策等についても取り組まなければならないと考えます。